

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成26年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

香川県東部志度湾を中心とした子供から大人、障害者まで一体となった地域活性化の促進活動

2. 提案機関名

徳島文理大学

3. 提案企画の概要

香川県の人口5万人のさぬき市の中でも特に志度湾沿岸部を中心として、環境と科学を学び、産業と経済の発展に結びつける。教員や学生が専門的、あるいは実体験やボランティア経験、科学的な研究をなじみやすい形で教室（大学）とフィールドワーク（干潟）を行い、指導する。

本企画の特徴は、

1) 年齢、立場を超えた広範囲の市民を対象とする

（小中学生、高校生及び一般の大人及び高齢者や知的障害を持つ人など）。

2) 地元各分野での広範囲な連携

（さぬき市、小中学校、商工会、漁業協同組合、企業、社会福祉協議会など）。

3) 体験や経験、知識だけではなく、干潟の清掃活動や、地元の特産を生かした新商品の開発、自由研究の指導を行う。

4. 企画の特徴

提案企画は、さぬき市という小さな市を対象としている。さぬき市における徳島文理大学の役割は地元出身の学生を育成するということにとどまらず、地元の小中学生の教育や産業、商業、漁業、農業、文化、その他多くの市民活動の中で重要な位置を占めるとともに場の提供や組織、ネットワークの構築あるいは運営を担う段階に発展、及び連

携、何よりも信頼関係が築かれている。さらに志度湾というわかりやすく、もなじみ易い題材を使うことで、世代や立場を超えてポリシーや目標を統一しやすいという利点がある。

本企画が対象者や業界を特定せずに、全て人を対象としている点はまさに、小さな市である点に優位性がある。また、すべてを対象に地元との連携を試みてきた成果でもある。

徳島文理大学とさぬき市とは、「学術や技術などを対象とした連携協定」を締結しており、特に理工学部では、地域共同開発センターを通じて連携を深めている。特に実践担当者（水野）は、地域共同開発センターの構成員として、さぬき市（総務課、学校教育課、商工課）および、さぬき市商工会、さぬき市工業部会、各地区漁業協同組合、さぬき市社会福祉協議会、さぬき市ケーブルネットワーク、などと個別の連携関係や共催イベントを行ってきた。各業界と本学、あるいは個別の業界間で築かれた縦系にあたる絆を、この企画を通じて横系でつなぐことで、全市を覆う有機的なネットワークの形成を構築する点が最も特徴的である。また、学生のボランティアサークル（レインボーの会）では、子供や障害者に教育や科学を体験する機会を与えるための活動をしているが、このサークルのメンバーも積極的、かつ自主的な活動を生かし、本企画に全面的に協力する。

5. 総合所見

概ね目標とする成果が得られた。

志度湾に関連した様々な企画を盛り込み、その内容の一部は環境教育的にみて意義深い。さらに、地元の自然、産業、福祉を横断的に扱った活動が概ね良好に行われた点は評価できる。しかしながら、交渉が難航したためとはいえ、本取組の柱でもあるケーブルテレビ番組の制作・放送ができなかったことは残念である。

今後は、「志度湾についての環境教育」を軸にした活動全体の体系化と、広報や情報発信の体制を整備していただきたい。

6. 実施者からPR・感想について

我々は、未就学児から小中学生高校生や大人、知的障害を持つ人まで楽しめる科学教室を目指して活動している。色や香りを大切に、五感を大切にされた実験や体験を目指している。本企画は、香川県の志度湾周辺の小さなエリアを中心として、美しい景色や、環境や生態系、特産品などを用いて科学を学ぶ企画である。地元の小学校や商工会、漁協など広い協力とネットワークをつくりバラエティに富み、且つ、生活に密着したものにできた。大学での活動の他、大串自然公園や鴨部川河口の干潟など大自然の中で、生

き物とふれ合い、色とりどりのろうそくや、ストラップを作る事で科学を学ぶことは楽しいと感じてくれたようだ。特に、手すきの海苔を使った実験では、地元の生産者の協力で、取れたての海苔を加工した。海について学び海苔とふれあう事で自然に対する意識が強まり、講義として学ぶ際に意欲が高くなったと感じた。後日、作成した海苔を食べたときの乾燥を聞いたが、非常においしく、環境を大切にしていきたいとの事であった。知る、体験する、学ぶだけではなく継続的な習慣として残る企画になったと思う。冬期依頼があれば協力します！！



[鴨部川河口干潟での観察会]



[UV レジン科学工作]

以上